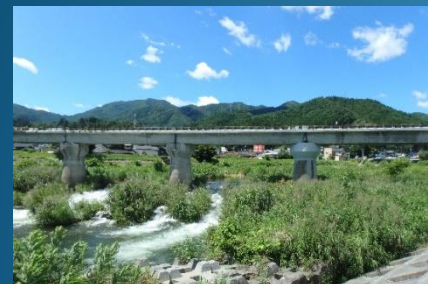


【内水面生態系の保全】

# 市民・学生の協働で守る 盛川の生態系



盛川の環境を守る会

# 大船渡市について

- ・ 岩手県の沿岸南部に位置
- ・ 人口 約3万3千人
- ・ 面積 約323km<sup>2</sup>
- ・ 三陸漁場、リアス海岸

➡古くから水産のまちとして発展

(サケ、サンマ、イカ、アワビ、ウニ、カキ養殖、ホタテ養殖、ワカメ養殖、ホヤ養殖…)



# 盛川について

- ・ 大船渡市街地を流れ、大船渡湾に注ぐ市内最大の河川  
流路延長17km、二級河川
- ・ 大船渡市民の憩いの場
- ・ 県内外からの釣り人で賑わう  
アユ、イワナ、ヤマメ



# 盛川の環境を守る会

設立日:平成26年1月20日

設立目的:盛川流域の生態系の維持・保全

構成員:盛川漁協

流心会(地元釣りクラブ)

立根川釣り同好会(地元釣りクラブ)

北里大学海洋生命科学部(神奈川県相模原市)

計41名(R5.2月現在)

※毎年10名前後の  
大学生・大学院生が参加



# 北里大学海洋生命科学部とのつながり

➡三陸に学部開設以来、50年にわたり大学と漁協が連携

盛川で調査研究を実施

(魚類や水生昆虫の生物相調査、サケやアユ、ウナギの資源調査、ダムの水生生物への影響調査、魚道の機能調査など)

漁協の環境学習や親水イベントへの学生の参加、協力

(アユのつかみどり体験、アユ釣り教室など)

東日本大震災で北里大学が被災し、

キャンパスが三陸から相模原へ移転・・・ 😞

つながりが途絶えるかと心配したが

現在も盛川で各種調査研究を継続

毎月、学生が三陸へ 😊



## 活動内容:

### ◆平成25～28年度

『ウナギの寝床再建計画～ウナギ躍る盛川の復活を目指して～』

ウナギの生態系の維持・保全

(石倉設置による生息環境整備、資源保護に関する啓発・普及など)

※現在は日本うなぎ生息環境整備事業(全内漁連)で実施



### ◆平成29年度～

『河川環境の整備～生物と人で賑わう盛川を目指して～』

内水面の生態系の維持・保全・改善

(ヨシガヤ等の刈払い、河川清掃)



平成25～28年度

# ウナギの寝床再建計画

～ウナギ躍る盛川の復活を目指して～



全国各地で天然ウナギの減少が問題に  
盛川でも同様の状況 → 危機感から活動開始

## 石倉設置による環境整備

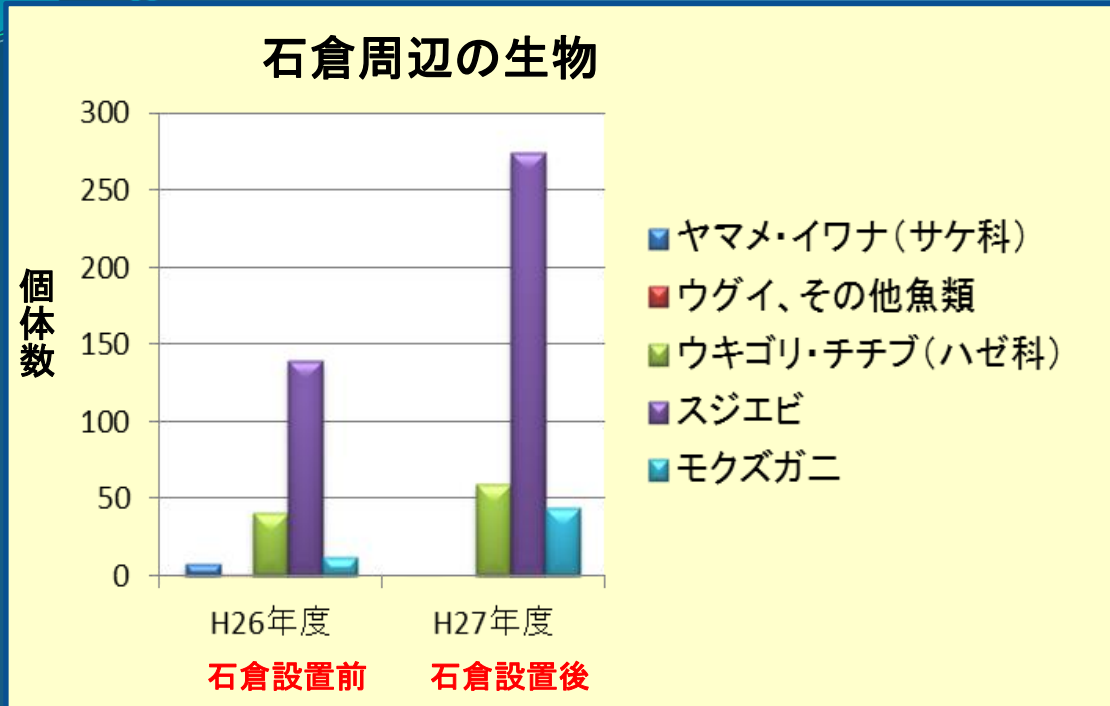


布団カゴを用いた石倉  
※随時、専門家の意見を  
受けて改良。





# 結果



スジエビ



チチブ



モクズガニ

石倉設置後、ウナギの餌（スジエビやハゼ科魚類等）を多く確認

⇒ウナギの餌生物の増集効果あり。餌生物の生息環境が改善。

本事業による活動中は、残念ながらウナギは確認できず・・・

しかし、今では、毎年、石倉でウナギの生息を確認!!



平成29年度～

## 河川環境の整備

～生物と人で賑わう盛川を目指して～

# 活動場所

□活動区域（市との協定区域）：面積18ha

## 活動内容

- ・ヨシガヤ等の刈払い
- ・河川清掃

175426.72 m<sup>2</sup>

▲モニタリング実施箇所  
計10箇所

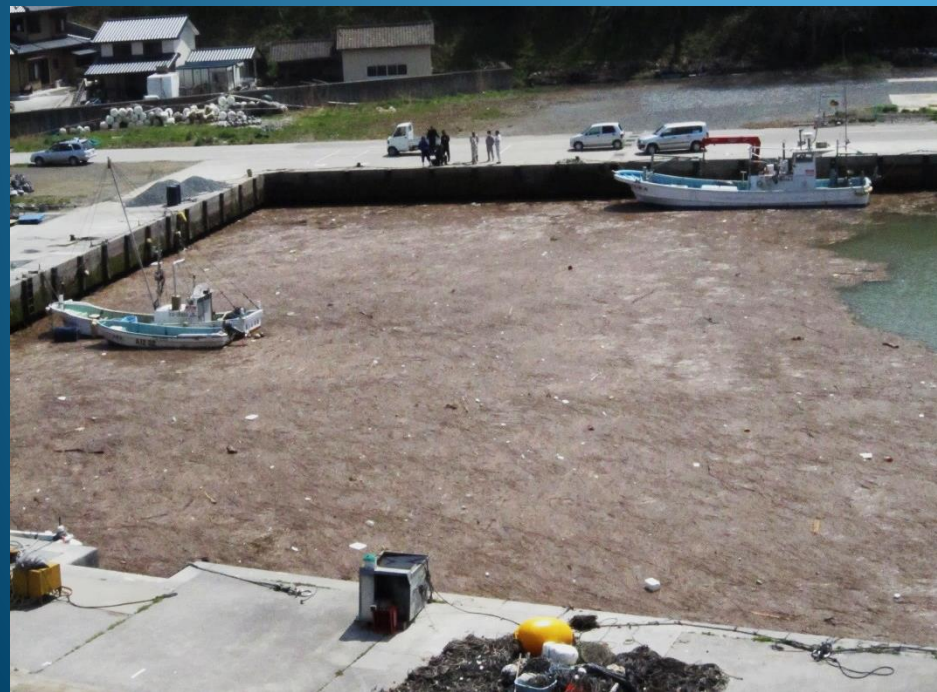


## なぜ ヨシガヤの刈払いなのか！？

ヨシ原は、鳥類や昆虫類等の多様な生物の生息場所となっており、河川の生態系を支える重要な場所の一つ

しかし、一方で・・・

立ち枯れしたヨシガヤが、大雨による出水時に海域に流出し、湾内の漁業や港湾などの産業活動に影響を及ぼすことも



漁港内に溜まったヨシガヤ



数日間、出船できず、  
漁業活動に影響する  
ことも



# 盛川のサケの増殖事業施設が被害を受けることも



H29.9月台風18号の影響で、ヨシガヤがサケの捕獲施設に引っかかり、施設は一部流出の大破。

➡そこで、当会では、河川環境の維持・管理の一環で、ヨシガヤ等の植物の刈り払いと河川清掃を実施

※以前、県がヨシ焼きを行っており、その効果は検証されていたことから、刈り払いを実施。活動時期や場所の選定については、ヨシ焼きによる環境影響調査の結果も参考にした。

# 刈払いと清掃

毎年、初夏から秋にかけて5～8回実施

生態系への影響を考え、ヨシガヤの地上部が枯れた秋を中心に実施



- ・参加者数：約100～150人/年
- ・活動面積：約10ha/年
- ・ゴミ収集量：約100～300kg/年

# モニタリング調査(水生生物・水質の調査)



大学生と川虫の採集

- ・年2回
- ・10定点



➡毎年、多くの種類の水生生物を確認。多様性が維持。

# 川や魚とふれあう機会の創出



環境整備で人と川が近くに



# まとめ

## 多様な主体が、得意分野を活かして活動

日常の管理：漁協・釣り人+近隣住民(ボランティア)+河川管理者(県)  
専門的な調査・分析：大学



○河川環境の整備による景観の向上、親水空間の創出

○ゴミ流出による湾内の漁業や港湾の被害軽減

○漁業者や釣り人の環境保全の意識の醸成

○大学生の参画による地域の活性化

- ・世代を超えた交流。
- ・若者に伝統漁法(アユの友釣り、投網)を伝える場にも。
- ・本活動に参加した大学生が卒業後、漁協や市、県の職員になり、立場を変えて一緒に活動。



ご清聴ありがとうございました

